



南海医療センター附属介護老人保健施設  
施設長 森本 章生



新年あけましておめでとうございます。

昨年、新型コロナウイルス感染症の収束に至っていないという状況の下、“東京オリンピック・パラリンピック”が開催されました。その開催には賛否両論ありましたが、実際に競技が始まってみると、やはり日本の選手のことを気になり、メダルが取れるよう応援をしたことと思います。その期間に当施設回診時に、ある入所者の方から「パラリンピックの選手が金メダルをとったことに感動しました。その選手の一生懸命な姿を見て、私も頑張ってリハビリをして早く自宅に帰らなければという思いを奮い立たされました。」というお話を聞きました。“東京オリンピック・パラリンピック”が開催されてよかったのだと、私は感じました。

さて、昨年末新型コロナウイルス感染症がかなり落ち着いてきましたので、当施設では対面での面会を1年半ぶりに再開しました。御家族の方との面会で、入所者の方々の活気がとても良くなったように思います。引き続き感染対策をしっかりと励行し、新型コロナウイルス感染症が収束することを願いつつ、本年のご挨拶に変えさせていただきます。今年も南海老健をよろしくお願い申し上げます。

副施設長 小野 宏



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、利用者様やご家族様、地域の皆様には、ご支援とご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。さて、新しい年を迎えましたが、以前の当たり前の日常が未だ戻っておらず、利用者様、ご家族様には、感染防止対策にご理解とご協力を頂き心より御礼申し上げます。感染防止の為とはいえ、長期にわたる面会制限、施設内行事等の活動の制限をせざるを得ない状況が続いており、ご不便とご迷惑をお掛けし大変申し訳なく思っております。しかし、県内及び国内でもここ数ヶ月感染状況が極めて落ち着いた状態となってきたことから、昨年12月から面会を緩和し限られた時間ではありますが、お部屋での面会を可能としております。今後も感染状況を注視しながら、引き続き施設での感染防止対策を徹底し、皆様が安心して利用できる施設を目指し取り組んで参ります。最後に、皆様の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も南海老健をどうぞ宜しくお願い致します。

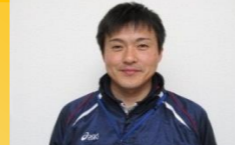
リハビリテーション室 室長  
理学療法士 富松 満代



新年あけましておめでとうございます。

昨年中は大変お世話になりました。振り返りますと、度々押し寄せたコロナの波、デルタ株が流行した第5波は、佐伯市内にも強い緊張感をもたらしました。何と申しましても、入所利用者様が長期間ご家族に会えない事に胸が痛みました。小さいモニター越しや、二階の吹き抜けからの面会等、精一杯の策が講じられたものの、それも叶わない方が大半でした。利用者様もご家族様も職員も『忍耐』の一年でした。さて私事ですが、持病の悪化により皆様にご多大なご心配をおかけしました。そして、治療に踏み切ることとなり、更なるご迷惑をおかけすることとなりました。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。また暖かい励ましのお言葉、多大なご協力を賜り心より感謝申し上げます。この度、左人工股関節置換術という手術を受けました。初めての手術でお産以来、初めての長期休暇、初めて患者の立場で受けるリハビリ。学ぶ事がたくさんありました。今後はこの経験を生かし、再び皆様と共にリハビリテーションを追求していきたいと思っております。皆様にお会いできる日を楽しみにしています。今年が明るく素晴らしい年となりますように。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

南海居宅介護支援センター  
管理者 國部 昭夫



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は大変お世話になりました。1年という時が経つのは早いもので、1日1日の大切さを痛感します。私事ではございますが昨年2月に社会福祉士の国家試験を受験し何とか合格することができました。まとまった時間がない中での受験勉強は大変でしたし、試験会場での緊張感もなかなかのものでした。吉田松陰の名言に『夢なき物に成功なし』という言葉がありますが、大人になっても夢を常に持ち続け、その夢に向かってチャレンジし達成できる自分でありたいと強く思います。その結果が日々を大切に過ごすことに繋がり、ご利用者やご家族にもより良いパフォーマンスが提供できるものと思っています。

2022年が皆様にとって幸多き年になるようお祈り申し上げますと共に、今後とも変わらぬご愛顧を宜しくお願い申し上げます。

看護師長 久保田 忍



新年明けましておめでとうございます。

平素より、施設の運営にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。昨年、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いた状態となり、施設においても面会が緩和され、ご家族に会われた利用者様の嬉しそうな顔を見ることができ、私共も嬉しく思いました。しかしながら、また新たなウイルスの変異株が確認され、予断を許さない状態が続いております。今年も職員一丸となって、利用者様の命を守るため、感染対策に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。さて、今年は、寅年の中でも壬虎(みずのえとら)とのこと。冬が厳しいほど、春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるといいます。今はまだ、我慢の時かもしれません。やがて訪れる穏やかで安定した生活のために、私たちは今できることに取り組んでまいります。

管理係長 簀戸 志穂



新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が流行し2年が経ちました。ご利用者様及びご家族様にはご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染が落ち着き12月は面会制限を緩和して直接面会することもできました。残念ながら、オミクロン株の発生増加と市中感染がありビニールカーテン越しの面会に変更となりましたが「かからない」、「うつさない」様、感染防止対策を行ってまいります。今年も門松を作成し玄関に飾っています。門松の裾の「荒縄」は下が7回、中が5回、上が3回巻かれています。7回巻いた荒縄は「男性」、3回巻いた荒縄は「女性」そして真ん中の5回巻いた荒縄は「男女の仲を取り持つ」という意味を表しています。つまり『円満』の意味がこめられているそうです。この一年おだやかに過ごしていただけるよう努めてまいります。本年もよろしくお願い致します。

介護士長 川井 忠明



昨年はコロナ感染も徐々に減少し

制限はありますが面会もできるようになりました。久しぶりにお会いして安心されることも多かったのではないのでしょうか。やはり直接会って話をする事に意義がある事を再認識できたと思います。コロナも終息に向かえばいいのですが、新たな株が広がりつつあり今後どのような状況になるのか気になるところではあります。話しは変わりますが2022年は寅年でありますが、寅年にもいろいろあるようで今年は「壬寅」だそう「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるとい事らしいのです。そのような2022年になればと願うばかりですと言いたところですが、みんなの力を合わせて努めることでよい年になればと思います。今年も、何卒よろしくお願い致します。